



岐阜県のシカ管理

岐阜県において、ニホンジカ（以下、シカ）による農林業被害が大きな問題となっています。

岐阜県は、平成23年3月に「岐阜県特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）（第一期）」を策定し、平成24年8月にその変更計画を策定しました。変更計画の中で、計画期間中に年間15,000頭の捕獲を目指し、生息密度を低減することにより被害の軽減を図るとしています。



シカによる剥皮が発生した林分



個体群を管理する

個体群の管理を行う場合、生息数の過度の変動による農林業被害などの発生、個体群の分断や遺伝的劣化など、人間側にも野生動物側にも不利益が生じないように注意する必要があります。そのためには、現在の個体群の状態を把握し、将来の変動を予測していくことが大切です。

現在の個体群の状態を把握する一環として、平成23年に清流の国ぎふづくり推進課が実施した調査により、県内のシカの推定生息数が明らかになっています（詳しくは「岐阜県ニホンジカ生息調査報告書」を参照してください）。

しかし、個体群を管理するためには、雌雄別生息数や年齢別生息数、出生率、妊娠率や死亡率など、まだまだ必要な情報は多くあります。

この中で、まず年齢に関する情報について明らかにしていきたいと考えています。それは、個体群の年齢構成がわかれば、過去の生息環境の変化や管理方法の評価などに活用できる可能性があるからです。



年齢を調べる

シカの年齢は、歯を調べることによりわかります。歯は収集や保存が比較的容易ですので、指標としても適しています。

シカの場合、どの歯からでも年齢を調べることができますが、抜きやすさと年齢の調べやすさから下顎の第一切歯がよく用いられます。

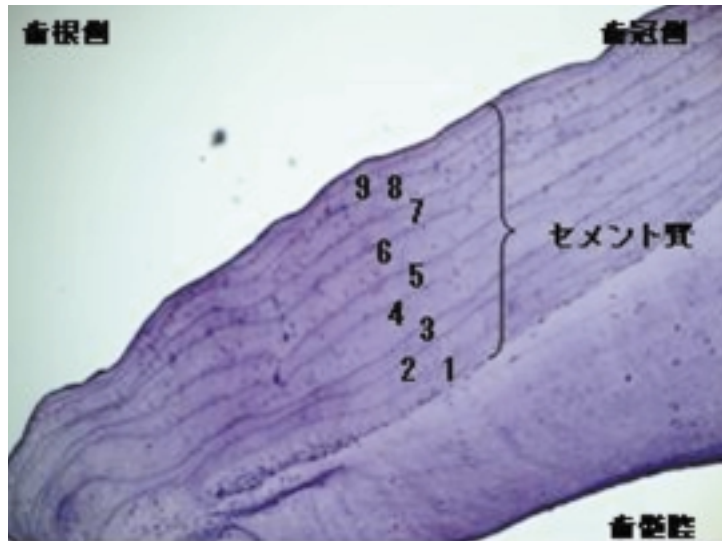


シカの第一切歯



右の写真は、実際に作成した第一切歯の標本を顕微鏡により観察したものです。写真の中ほどにある濃紫色の線の本数を数えることにより、満年齢を調べることができます。

この標本では9本の線が確認できますが、今回用いた第一切歯の場合、生後1年の間に乳歯から永久歯へと生え替わりますので、確認された線の本数に1年を加え、満10歳の個体であることがわかります。



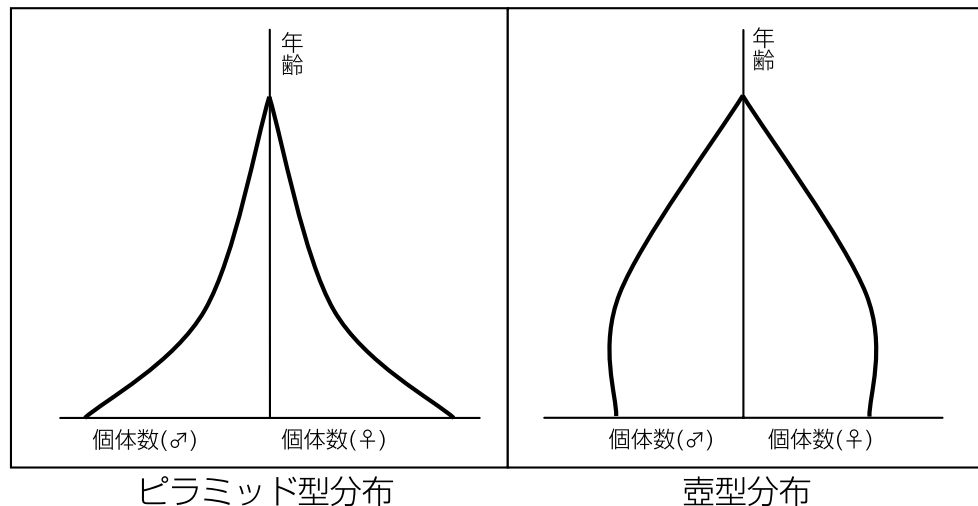
標本の顕微鏡写真



今後に向けて

このようにして集めた個体の情報を、縦軸を年齢、横軸を雌雄の個体数とし図化することにより、個体群の特徴が明らかになります。

対象の個体群の年齢分布が図のようにピラミッド型であれば多産多死の傾向に、壺型であれば少産多死の傾向にあると判断できます。



また、捕獲圧を高めた年以降の年齢の生息数が少なければ捕獲効果があがっている、生息数があまり変わっていなければ、より高い捕獲圧が必要と評価することもできます。

一方、このような調査は単年度だけでは十分な情報が集まらないため、長期間にわたって調査を継続していくことが必要になります。今後、林地内対策や個体数管理などの様々な方面からシカと森林被害及びその対策の研究を進めていく方針です。つきましては、被害の発生状況や二ホンジカの日撃情報、試料の収集などについて皆さまのご協力をお願いします。